

平成28年度特別研究中間報告

## ドイツのスポーツ事情

明石真和

### 1. ドイツと日本のスポーツクラブの調査

2016年度に経済研究所推薦による特別研究「ドイツの大学やクラブにおけるスポーツ教育とスポーツビジネスに関する統合研究」（研究代表者：明石真和、共同研究者：野田裕康）の助成を受けて、明石は2016年8月、ドイツに2週間出張し、12箇所のクラブ施設訪問を行なった。また、2016年12月10日には、一連の研究として埼玉県サッカー協会会長横山謙三氏（メキシコ五輪銅メダリスト、元日本代表監督）を講演者にお招きし、本学サッカー部関係者や周辺の大学サッカー指導者とともに、ワークショップも開催した。さらに、2016年2月には共同研究者と共にヴァンフォーレ甲府を訪問し、佐久間悟副社長にお話を伺った。また、明石はこれ以外にも名古屋、静岡、大阪へ取材を行ってきた。



写真1 佐久間悟氏（ヴァンフォーレ甲府副社長）へのインタビュー

## 2. 特別研究助成プロジェクト「ドイツのスポーツクラブ事情」

そして、本特別研究の中間報告会を兼ねたセミナー「ドイツのスポーツクラブ事情」が、2017年2月13日に開催された。当日は駿河台大学関係者ばかりでなく、他大学研究者やサッカー関係者など、多くの方にご参加いただき、セミナー終了後も様々な質問やご意見を賜り、盛況な報告会となった。

このセミナーではまず、NHKテレビドイツ語講座講師も務められた、旧東独出身のフランク・リースナー氏(現在千葉大学・日独協会等の講師)をお招きして、東西ドイツ統一以前の東独スポーツ事情についてお話いただいた(同時通訳:明石)。当日、リースナー氏は豊富なスライド資料に基づいて、FDJやFDJBなど貴重なお話をしていただき、ソ連とのスポーツの関係や考え方、東独サッカー大会の事情など、社会主義時代に見られたドイツスポーツの知られざる実態を伺うことができた。

続いて、本学OBの芦野訓和氏(東洋大学教授)に、ドイツスポーツクラブの現状についてまとめていただいた。芦野氏は2014年度にドイツ・バイロイト大学に留学され、現地ではご子息が地元のスポーツクラブに加入

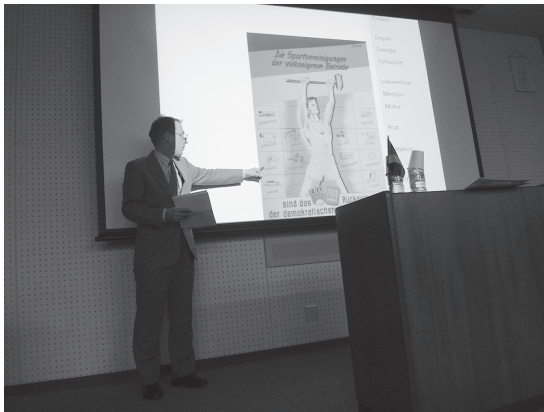


写真2 フランク・リースナー氏の講演

## ドイツのスポーツ事情

するという貴重な経験をされていることから、今回のセミナーにご参加いただき、地域に根ざしたドイツスポーツ事情について、お話しをお願いした。スライドでは、実際にご子息のスポーツクラブメンバーの成績表などを見せていただき、子供のレジャーやスポーツ活動においてもドイツ人の几帳面さや厳格さ、そしてスポーツに対するドイツ行政やクラブの役割が、極めて大きな役割を果たしていることが報告された。

つぎに、「ドイツのスポーツクラブ事情」と題した2016年度経済研究所特別研究助成の中間報告会が、研究代表者の明石真和、及び、共同研究者の野田裕康の2名により実施された。共同研究者の中間報告は別稿(次頁)に譲ることとし、最後に、明石の中間報告の概要を総括として簡単に述べておきたい。

今回のセミナーでの2名のプレゼンを受けて、東西ドイツ時代から、再統一以後のスポーツ事情まで、現代史をふまえながらドイツサッカーの今昔を1863年から時系列にまとめて報告した。1978年のルール大学留学以来、40年近くサッカーを中心としたドイツのスポーツを取材してきた経験から、本大学で過去に実施された研究成果も含めて、今回の報告では、写真スライドで振り返りながら、ドイツのスポーツ教育の特徴や、サッカークラブの実態、さらにスポーツ指導者の経営方針や経営哲学まで、ドイツや日本



写真3 芦野訓和氏（東洋大学教授）の講演

のサッカー競技場、選手やマネージャーなど様々なインタビューから多角的にスポーツを分析することができた。

セミナー終了後は、リースナー氏への質問が多く、参加者の東ドイツサッカーへの関心が高いことが伺われた。今回は中間報告として経過を述べるにとどまったが、これらの成果を元に、今後もワークショップを続け、ドイツスポーツクラブにみる企業や学校との連携について研究をまとめたい。



写真4 フランク・リースナー氏の講演